



共生の時代

'10
1月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876

「抱樸館福岡」は

私たちの希望です



社会福祉法人グリーンコープ 副理事長 奥田 知志 さん

プロフィール
1963年生まれ。滋賀県大津市出身。学生時代に訪れた大阪市の釜ヶ崎(現あいりん地区)でボランティア活動をしたことがきっかけで、大学卒業後北九州市の東八幡キリスト教会の牧師に。認定NPO法人北九州ホームレス支援機構 理事長、ホームレス支援全国ネットワーク代表

奥

田さんが社会福祉法人グリーンコープの副理事長に就任したのは、2008年3月。福岡市のホームレス者を支援する「抱樸館福岡」の候補施設の見通しがたち、その後の牽引を一手に担うためだった。しかし地元住民の強固な反対運動が起き、8月その候補施設はあきらめざるを得なくなった。「撤退の決定を聞いたのは夕方の6時。突然でした。それで翌日の10時にはもう『今後』について理事会を開くというのです」。計画が白紙になれば路上にいる約1000人のホームレス者はどうなるのか。一晩で「福岡巡回計画」を作成し担当者も決め、翌朝社会福祉法人グリーンコープの理事会に提案した。「昨日

の今日というのに各地から理事さんたち全員が集まってきたら泣いて、涙を流しながら口々に「奥田さんくやしかったでしょう」と言われるのです。迅速な動きと溢れるほどの共感。ああ、この人たちとなら一緒にやっていけると思えました」。北九州市で20年間のホームレス支援の実績があった。その間に行政や諸団体との関係も築いてきた。それで少しおこりがあつたのかもしれないと自省した。世の中は一朝一夕には変わらない。この撤退劇で改めて、「傷つく覚悟がある」と確信した。



今の社会のありように強い危機感を持っている。競争社会を背後で支える「自己責任論」。誰もがその責め苦の中であえいでいる。ホームレス者だけではない、



若者、主婦、障がい者、働き盛りの人々。人と人との切り離され、社会全体のホームレス化は雪崩をうつつやうだ。年間の自殺者も3万人を下ることはない。「人間は歴史の中で経験的に学んだことがあります。それが「人は独りでは生きられない」ということでした。人間は弱い。だからこそ「社会」をつくった。たすけあおうとさまざまな社会的なシステムをつくったのです。生活協同組合なんてその最たるものでしょう。抱樸館の人間観も「人は弱い」なんです。人間はたすけあつて生きるしかないのです。



抱樸館福岡の完成予想図

「グリーンコープの地域をつくる取り組み、その源は1987年ネグロスへの緊急救援にまでさかのぼると聞きました。目の前の飢

えた子どもたちを、組合員さんは母親として抱きとめた。その切実な思いがその後、日々の「食への運動」を豊かに育んできたのですね。「そして今、再び路上で苦しむのちに寄り添おうとされている。そこまで踏み込む生活協同組合は稀です。それは今の社会、自己責任社会への挑戦なんです。だからこそ私たちは協働できた」。抱樸館福岡は現在、新たな地で建設が進められている。つくられようとしているのは「ハウス」であり「ホーム」だ。「ハウスをつくるのに必要なのは、資金」です。皆さんぜひカンパをお願いします。そして、焦点は「ホーム」。ホームって何なんだろうと思うんですよ。それはもう「無条件に帰れるところ」じゃないでしょうか。生きてさえいれば、誰であつても安心して帰れるところです。裏返せばハウスにはお金が必要ですが、ホームには誰でもなれるということです。

一人ひとりの生き方が社会をつくるという事実には希望を託せば、抱樸館福岡の成否は私たち自身のありようにかかっている。心の舵を大きく切る時だ。

Contents

ホームレス問題を考える 10	
「助けて！」が言えない若年層のホームレス化	2
うちのメーカー・うちの生産者®	
旭鳳酒造(株) 日本酒	3
…2010年を寿ぐ…	
みんなの力を寄せあい未来に夢をもてる社会づくりをめざして…	4・5
～グリーンコープのこだわり再発見～ グリーンコープ青果生産者の会	
共に未来をつくっていくパートナーとして	6
高齢者福祉学習会	
ぼけても普通に暮らしたい	7